

華

地域密着型サービス自己評価票（網掛け部分は外部評価も行う調査項目）

取組んでいきたい項目には「1」が入っています。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取組んで いきたい 項目	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
			理念に基づく運営 1～5 (自己 1～24・外部 1～14)	自己評価24項目・外部評価14項目	6	
理念に基づく運営	1		理念の共有(自己 1～3・外部 1～2)	自己評価3項目・外部評価2項目	1	
		1	地域密着型サービスとしての理念【外部評価】 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中にある「住み慣れた所で、なじみのひとたちといつもの一日が送れる、楽しく笑いの絶えない」という言葉をモットーに楽しく生きがいをもった生活が提供できるように日々取り組んでいる。	0	
		2	理念の共有と日々の取り組み【外部評価】 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全体会議やミーティングなどで理念を共感しその方向性にあったケアができていくか、確認している。職場研修の取り組みの中でも再度確認している。	0	
		3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会や運営推進会議などで理念を伝え、それに基づいてケアを行っていることを説明している。	1	地域の方々との関わりの必要性を理解して頂けるように、勉強会やテーマを持った話し合いを行っていききたい。
			2 地域との支え合い(自己 4～6・外部 3)	自己評価3項目・外部評価1項目	1	
	2	4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の住人との挨拶や会話からホームを理解してもらえように取り組んでいる。	0	
		5	地域とのつきあい【外部評価・重点】 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入り、地域の催し物（夏祭り、老人クラブetc）に入居者と参加している。夏祭りやクリスマス会など、地域のサークルの方々に参加してもらっている。	1	地域の方々にもホームの方に気軽に足を運んでもらえるように、これからも地域の行事に多く参加し、交流を深めたい。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営	2 支地 え域 合 と い の	6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ながら医院が行っている介護予防教室が当ホーム1階の地域交流サロンで定期的に行われている。職員も参加させてもらい、地域の方々と話し合いをもつ良い機会となっている。	0	
		3	理念を実践するための制度の理解と活用(自己 7~11・外部 4~7)	自己評価5項目・外部評価4項目	3	
		7 外部 評価 4	評価の意義の理解と活用【外部評価・重点】 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価で指摘のあった、地域との交流についてを大きな課題として取り組んでいる。月1回の全体職員会議やミーティングにて、外部評価の意義を説明している。	1	前回の外部評価の指導について、できていないところを話し合い、今後改善していく。
		8 外部 評価 5	運営推進会議を活かした取り組み【外部評価・重点】 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の際に、サービス内容や評価への取り組みについての報告をし、地域の代表の方々とモニタリングをし意見交換をおこなっている。	1	行政（福岡市）や地域包括支援センターと密に連絡し、運営推進会議をもっと活用できるように努力したい。
		9 外部 評価 6	市町村との連携【外部評価・重点】 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	あまり市町村担当者とは連絡を取る機会がない。	1	サービスの質の向上のためにも内容を検討し、市町村との連携が図れるように努力して行きたい。
		10 外部 評価 7	権利擁護に関する制度の理解と活用【外部評価・追加】 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度についての職員への勉強会を行ない、入居者や家族などに説明し理解してもらうように努めている。	0	
		11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が虐待についての研修に参加し、それを研修報告会で伝達し勉強会を行っている。職員一人ひとりに普段の関わり方を考えてもらい虐待を認識できるように努めている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
		4	理念を実践するための体制(自己 12~18・外部 8~10)	自己評価7項目・外部評価3項目	0	
理念に基づく運営	4 理念を実践するための体制	12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は家族が納得されるまで説明し、話しやすい雰囲気作りを行い、分かりやすい表現や事例を用いて説明を行なっている。	0	
		13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、苦情や意見を頂いた時は、速やかに話し合いを行ない原因を考え対策を立て運営に反映している。	0	
		14	家族等への報告【外部評価・重点】 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会の時を利用し、各種行事のビデオを上映し、日常生活の写真も廊下に展示したり、スクラップにとじたりしている。また面会時には、前回来られた時から当日までの状況を報告し、日常生活の状況を詳しく報告している。	0	
		15	運営に関する家族等意見の反映【外部評価・重点】 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け苦情箱を設置し、こちらから家族へ意見がないかお尋ねし、意見をいただいた時は、迅速に問題を解決して今後のサービスに反映させるように努めている。	0	
		16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットごとに介護を行ない、出た意見を取りまとめ、毎月1回行う全体会議で再度検討し意見を反映させている。	0	
		17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	月初めに1か月分の勤務表を作成し、行事や会議に合わせて必要な人員の確保に努めている。急な業務上の変更時は、職員の生活スタイルを重視した上で調整を行なっている。しかし、調整が不可能な場合は、管理者が対応している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基 づく運 営	4 理 念 の 実 践 制 す	18	職員の異動等による影響への配慮【外部評価】 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるよ うに、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利 用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職を最小限度に抑えてはいるが、 異動や離職後もホームへ面会に来てもらったり、 行事に参加してもらったりして、入居者にダメ ージを与えないようにしている。	0	
		5 人材の育成と支援(自己 19~24・外部 11~14)			自己評価6項目・外部評価4項目	1
	5 人 材 の 育 成 と 支 援	19	人権の尊重【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や 年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生 きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよ う配慮している	職員の募集にあたっては、性別・年齢などの制限 は行っていない。管理者が面接を行ない、グル ープホームでの就職が適切か判断し、採用を決定 している。休みの希望などは、可能な限り調整 している。	0	
		20	人権教育・啓発活動【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するた めに、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修に参加すると共に、全体会議時において人権 教育を行っている。	0	
		21	職員を育てる取り組み【外部評価】 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をた て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	運営法人で行う研修や外部研修に積極的に参加さ せている。職員全員が、年に1回以上外部研修に 参加できるように努力している。また、研修参加 後は報告会を開催し、参加できなかった職員にも 情報を伝えている。	0	
		22	同業者との交流を通じた向上【外部評価】 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、 ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設とは、電話やメールなどで情報交換を 行っている。	1	他の施設での実習を行いたい。
		23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境 づくりに取り組んでいる	職員が相談しやすい雰囲気や環境をつくってい る。相談を受けた際は迅速に対応している。定期 的に交流会を持ち、ストレスを緩和する機会をつ くっている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	5 と人 支材 援の 育成	24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課の自己評価で自分自身を振り返り、モチベーションが上がるように努めている。本人の意向を重視しながら資格取得に向けた支援を行っている。職員にアンケートをとり、改善していき、働きやすい環境をつくっている。	0	
安心と信頼に向けた関係作りと支援 1～2 (自己 25～34・外部 15～16)				自己評価 10 項目・外部評価 2 項目	0	
安心と信頼に向けた関係作りと支援	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 (自己 25～28・外部 15)			自己評価 4 項目・外部評価 1 項目	0	
	1 相 談 か ら 利 用 に 至 る ま で の 関 係 づ く り と そ の 対 応	25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に見学に来ていただいたり、自宅や施設などへ訪問し話を聞いている。面談時は、家族やケアマネジャーと同席してもらい、話しやすい雰囲気を作り必要な情報を収集している。	0	
		26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まずはホームを見学してもらい、見学に来られた時によく話を聞くようにしている。利用を開始する前に、入居申込書に記入してもらい、今後のサービス内容につなげている。また、いつでも電話相談に対応できるように体制を整えている。	0	
		27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在利用されているサービス内容を確認し、利用できるサービスの種類や内容について説明を行っている。また、グループホームでのサービス内容の説明も行ない、グループホームとはどういう所か説明している。	0	
		28 外 部 評 価 15	馴染みながらのサービス利用【外部評価】 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に見学に来ていただき、ホームの雰囲気に馴染めそうか判断していただいている。入居時には、馴染みの家具を持って来ていただいたり、馴染みの呼び方で声をかけるようにして本人が落ち着けるように工夫している。	0	
	2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 (自己評価 29～34・外部評価 16)			自己評価 6 項目・外部評価 1 項目	0	
係り と 新 た な 関 係 づ く り の 支 援	29 外 部 評 価 16	本人と共に過ごし支えあう関係【外部評価】 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で喜怒哀楽を共にして、入居者から教えてもらったり、助けられたりしている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係作りと支援	2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会の時を利用し本人と家族を交え、最近の様子を伝えたり、状態が変化した時はその都度連絡を取り報告している。各種行事は事前に予定表を渡して家族の参加をお願いし、家族と一緒にレクリエーションを行い、楽しい時間や会話を共にしている。	0	
		31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時や電話がかかってきた時は、身体状況や生活ぶりを報告している。日々の生活の中で家族の話をされた時は、その内容を家族に伝えている。	0	
		32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族が面会を断られない限り、友人や近隣の方々の面会を行っている。本人が希望されれば、電話も繋いだり、希望される近くの場所までお連れしている。	0	
		33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係・本人の性格などを把握して席を配置したり、孤立しないようにしている。体操やレクリエーションを通し、皆で楽しく過ごす時間を作っている。また、入居者同士がお互いの居室へ行き来する時間を大切にしている。	0	
		34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も、手紙・電話・メールなどで連絡を取っている。	0	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1～4 (自己 35～51・外部 17～22)				自己評価 17項目・外部評価 6項目	2	
	1	一人ひとりの把握(自己 35～37・外部 17)		自己評価 3項目・外部評価 1項目	0	
	1 の 一 把 人 握 ひ と り	35 外 部 評 価 17	思いや意向の把握【外部評価】 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族とコミュニケーションを取る中で、日頃の思いや希望などをさりげなく聞き出すように努めている。その人らしいあり方は何かを、ケアカンファを通じて話あっている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	1 一人ひとりの把握	36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントを実施し、情報提供を受けている。日頃の会話の中から回想され、情報を聴取している。職員は介護記録やアセスメント(センター方式)を読み把握している。	0	
		37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々入居者を観察し、心身状態やできる能力などについて申し送りやケアカンファを通じて把握している。変化時は、その都度ケアの方法を検討して早期に対応している。	0	
	2	本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し (自己 38~40・外部 18~19)	自己評価3項目・外部評価2項目	0		
	2 介護計画の作成と見直し 本人がより良く暮らし続けるための	38 外部評価18	チームでつくる利用者本位の介護計画【外部評価】 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人らしい生活が送れるように、アセスメント(センター方式)を使用し、本人・家族・主治医・職員などとモニタリングを行ない、介護計画を作成している。	0	
		39 外部評価19	現状に即した介護計画の見直し【外部評価】 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期限内に見直しを行なっている。状況が変化した時はすぐにモニタリングを行ない、状況に即した介護計画を立て直している。	0	
		40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言動がいつもと違う時は介護記録に詳細を記載し、申し送りを行ったり連絡ノートに記載したりして情報を共有している。また、定期的にモニタリングを行ない介護計画に活かしている。	0	
	3	多機能を活かした柔軟な支援(自己 41・外部 20)	自己評価1項目・外部評価1項目	0		
	3 柔軟な支援	41 外部評価20	事業所の多機能性を活かした支援【外部評価】 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族がホームでの宿泊を希望された時は、寝具を貸し出している。家族の要望や状況など必要に応じ柔軟な対応をしている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4		本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 (自己 42~51・外部 21~22)	自己評価10項目・外部評価2項目	2	
		42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方・町内会の方・幼稚園・交番・消防署などへの協力体制はできている。近隣の住民の方々へは積極的に挨拶を行ない、話をしている。ボランティアの受け入れも行っている。	0	
		43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じて、他のサービスが受けられるよう連絡は常にとっている。	0	
		44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの交流は少ない。	1	今後はもっと活用していきたい。
		45 外部 評価 21	かかりつけ医の受診支援【外部評価】 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、医師が訪問診療を行っている。また緊急な受診の時は、当事業所の職員が付き添い、医師へ状況を伝えている。受診後は、主治医への報告を行っている。	0	
		46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	運営母体であるながら医院と連携をはかり、認知症の診断・治療・対応方法について、指示・助言・相談を受けることができる。なお、在籍する医師は、認知症学会に所属している。	0	
		47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が常に勤務しているので、健康管理や医療の活用はすぐに対応できる。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4	48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	定期的に面会に行きながら話をしながら観察したり、家族と連絡をして状態を把握している。早期退院に向けて、医療連携室と連絡を取り、話し合いや情報交換を行っている。	0	
		49 外部評価 22	重度化や終末期に向けた方針の共有【外部評価】 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制を取っている。入居時に重症化した場合の指針に同意を頂き、職員全員で何度も話し合いを行ない方針を共有している。終末期に対する意向が家族の中で変わることがあるので、何度も家族と話し合いを行なっている。その中で、家族の思いや本人の意思を職員へ伝え、意思を尊重しながら行っている。	1	ターミナルケアについては、研修参加や勉強会を重ね当ホームでの方針を充実させていきたい。
		50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族へグループホームは医療機関ではないため、医療行為ができない事を伝え、ホームでできる範囲の対応について説明を行っている。緊急時は、主治医とすぐに連絡が取れる体制があり、必要に応じて入院できる病院の体制が整えられている。	0	
		51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人や家族の意向を考慮し、受け入れ先施設や病院などに一緒に出向き見学をしたり、情報交換を行っている。退去後も、家族の相談に応じている。	0	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1～2 (自己 52～89・外部 23～33)				自己評価 3 8 項目・外部評価 1 1 項目	4	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1	その人らしい暮らしの支援 (1)～(5) (自己 52～81・外部 23～30)		自己評価 3 0 項目・外部評価 9 項目	3	
		(1)	一人ひとり尊重(自己 52～54・外部 23～24)	自己評価 3 項目・外部評価 2 項目	0	
		52 外部評価 23	プライバシーの確保の徹底【外部評価】 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の尊厳を傷つけないように、言動や記録に気を配っている。個人情報についての勉強会を開催し、個人情報の取り扱いには十分に注意するように指導している。在職中はもちろん退職後も情報の漏洩がないように指導している。	0	
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	何事も本人のペースに合わせて対応するようにしている。日常生活の中で、本人が何を望んでいるのかを考察し、自己決定できるように表現し支援している。	0			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	54 外部評価 24	日々のその人らしい暮らし【外部評価】 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の身体状況や体調に合わせて、居室で過ごされたり、リビングで過ごされたりと、本人の意思を尊重しながら、行動を変更している。	0	
		(2)	その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 (自己 55~60・外部 25~26)	自己評価 6 項目・外部評価 2 項目	0	
		55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	髪形は、本人が整髪されている状況をみながら、最後に修正をしている。また、毎月訪問理容を利用して、入居者の髪の長さに応じて散髪・ヘアカラー・パーマなどを行っている。更衣は、本人の好みを聞きながら、季節や気温に応じた洋服を選んでもらっている。	0	
		56 外部評価 25	食事を楽しむことのできる支援【外部評価】 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の身体能力や意欲に応じて、調理を職員と一緒にしたり、食材の下ごしらえ・盛り付け・テーブル拭きなどを行ったりしていただいている。片付けも、入居者それぞれのできる範囲で、下膳・食器洗い・食器拭きなどを行っていただいている。	0	
		57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	肉類・鯖・乳製品が食べられない方には代替品で対応している。本人の好まれる食べ物や飲み物があれば、できる範囲で用意し、楽しめるように支援している。飲酒に関しては、お正月のみお屠蘇を提供している。飲酒や喫煙に関しては、入居時に当ホームではできないことを説明している。家族からも、禁酒・禁煙を望まれる。	0	
		58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、その都度排泄を確認している。一人ひとりの排泄パターンを把握し定期的にトイレ誘導を行ったり、声かけを行ったりしている。それにより、オムツから下着へ変更したり、またオムツに失禁しないで不快感を与えないようにしたりと、支援を行っている。	0	
		59 外部評価 26	入浴を楽しむことのできる支援【外部評価】 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	女性の方で2名は必ず一番風呂を希望される方がいるので、曜日をずらして対応している。入浴日を決めているが、本人の希望を聞き交代したりしている。入浴を拒否される方へは、時間を置いたり、スタッフを変えたり、入浴剤を使用したりして、気持ちよく入浴できるように支援している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	介護チェック表で睡眠パターンを把握している。夜間不眠の同居者には、日中に極力体を動かして安眠を促している。不眠時にはホットミルクを飲んでいただいたり、又は居室に誘導しベッドやソファと一緒に座りお茶を飲んだりしてゆったりとした時間をつくり精神的に休息できるように支援している。	0	
		(3)	その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 (自己 61~66・外部 27~28)	自己評価6項目・外部評価2項目	0	
		61 外部評価 27	役割、楽しみごと、気晴らしの支援【外部評価】 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意なことを生活歴から洗い出し、裁縫・編み物・工作・日曜大工・園芸など楽しく行ってもらうように、支援している。	0	
		62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心される方には、家族と話し合っ、財布に小額のみ入れて自己責任の下、自己管理してもらっている。買物に行く時は、本人の財布から購入してもらい、支払は一緒に行かない領収書を必ず受取るようにしている。	0	
		63 外部評価 28	日常的な外出支援【外部評価】 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常生活品や洋服などの購入を希望された時は、近くのスーパーや商店街に買物に行っている。春や秋には散歩に出かけたり、お正月に帰省されていない同居者とは初詣に出かけている。	0	
		64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事で外出(ドライブ・買物・花見など)の機会を提供し、家族への参加をお願いして行っている。また、行きたい場所などを日頃から聞いている。本人が行きたい場所を話された時は、家族へ報告し協力できる場所は支援している。	0	
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望された時は、ホームの携帯電話からかけて話をしてもらっている。個人携帯を持たれている方は、電話をかける時に電話番号が間違っていないか一緒に確認をしている。手紙を書きたい時は、本人やホームの便箋やハガキを使用して書いてもらったり、代筆したりして、近くのポストまで一緒に行き投函しに行っている。	0			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	誕生会や各行事には案内を配布し、面会時に声かけを行ない、参加して頂けるように呼びかけている。居室・テーブル席・ソファ・畳など自由な場所で入居者と過ごせるように支援している。好みのお茶やお菓子を出して入居者と一緒に飲んだり食べたりして、ゆっくりとくつろいでもらえるようにしている。	0		
		(4) 安心と安全を支える支援(自己 67~74・外部 29~30)			自己評価8項目・外部評価2項目	2	
		67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、職員に周知徹底をし意識の統一を行っている。生命に危険を及ぼすことがない限り身体拘束は行わない。	0		
		68 外部 評価 29	鍵をかけないケアの実践【外部評価】 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニットの玄関や居室には鍵はかけていない。ユニットの玄関には人感センサーを設置し、センサーが反応した時は必ず玄関へ確認に行っている。入居者の危険防止のため止むを得ず鍵をかける時は、家族に説明を行なっている。	0		
		69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビングでは必ずスタッフが見守りを行ない、入居者のそばで観察・記録などを行っている。調理中も、カウンターからリビングを見渡しながら入居者の状況を把握し、職員へ声をかけ安全に配慮している。	0		
		70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を 律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者一人一人の状態に応じて、安全性を考えながら、検討と対応をしている。	0		
		71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書・ヒヤリハット報告書を使用し、事故が起こった場合には迅速に会議を行ない、再発防止に取り組んでいる。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルを作成し、看護職員が勉強会や業務の中で介護職員へ指導及び教育を行っている。	1	蘇生法などの勉強会は定期的に行っていきたい。
		73 外部評価 30	災害対策【外部評価】 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時マニュアルを作成し、勉強会や訓練を行っている。	1	訓練の際は、近隣の方にも参加していただけるよう交流をもちたい。
		74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランを通じて、リスクの説明を行なっている。病状が急変した時には主治医を交え、すぐに家族に説明を行なっている。	0	
		(5)	その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 (自己 75~81・外部 31)	自己評価7項目・外部評価1項目	1	
		75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルサインの測定を行ない、異常時は管理者や看護職員へ報告や相談して指示を仰いでいる。入居者の病態や異常時などに対して、ケアカンファ・会議で情報を提供したり資料を配布して、対応方法を確認している。	0	
		76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的・用法・用量・副作用などは「入居者薬管理簿」にまとめて、すぐに分かるようにしている。その日の内服薬はホワイトボードに貼付けし、食事ごとに台所に持っていきが飲み終わったらスタッフ室に戻して保管し、飲み忘れがないようにしている。	0	
		77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給を行ない、摂取量が少ない入居者には水分チェックを行い確認している。食事時は野菜を多くし、バランスのよい献立を作成してもらっている。ご飯に玄米やにがりを加えたり、冷たい牛乳を飲んでいただくなど、便秘予防をしている。また腸の運動を促すために毎朝体操も行っている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時と毎食後に口腔ケアを、入居者一人ひとりに応じた声かけや介助を行っている。義歯の方は、毎晩洗浄剤を使用して清潔保持に努めている。	1	入居者全員の歯科往診を定期的に行っていききたい。	
		79	栄養摂取や水分確保の支援【外部評価】 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は主食と副食に分けて摂取量をチェックしている。摂取時間や摂取量に応じ食事の形態を一口大・キザミ・ミキサーと変更している。麻痺のある方へは、滑り止めマット・スプーンやフォーク・食器を変更したりして対応している。水分摂取が少ない入居者には水分チェック表にて管理を行い飲水を促している。	0		
		80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	毎年インフルエンザの予防接種を行っている。手洗いを各食前に行ない、手指の消毒も行っている。「感染症予防マニュアル」を作成し、勉強会を行って周知徹底を行っている。	0		
		81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	チェック表を作成し、毎日包丁・まな板・ふきは熱湯消毒を行ない、週1回は塩素系漂白剤で消毒を行っている。食材は、賞味期限を確認し、使いきれぬ量の食材の購入に心がけている。調理後はなるべく早めに摂取し、時間をおかないようにしている。	0		
	2	その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)~(2) (自己 82~89・外部 32~33)			自己評価 8 項目・外部評価 2 項目	1	
	2	(1) 居心地のよい環境づくり(自己 82~86・外部 32~33)			自己評価 5 項目・外部評価 2 項目	1	
	2 生活の環境づくり	82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりに植木やプランターに花を植えている。近所の方々が季節を感じたり、また回想されるように玄関先には以前よりあった桜と柿の木を残している。	0		
		83	居心地のよい共用空間づくり【外部評価】 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの一角に和室スペースを設け照明・居室の扉・手すりにも和を感じさせる配慮をしている。リビングのテーブルには季節の花や野草を飾り壁には季節を感じさせる装飾を入居者が作成・展示イベント時の写真を飾るなど楽しませてもらえる。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの畳やソファーでは入居者が集う場所になっている。	0		
		85 外部評価 33	居心地よく過ごせる居室の配慮【外部評価】 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談の上、使い慣れた家具や生活用品を持ち込んでいただき、なるべく入居される前の部屋（自宅や施設など）と変わらないよう、見慣れた物の中で過ごせるようにしている。	0		
		86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに実行している	居室・共有部分には換気扇が取り付けられて、二段階で調節できるようになっている。毎朝掃除やシーツ交換の時に、窓を開けて換気を行っている。室温は、入居者ごとに居室のエアコンの温度を変えている。	0		
		(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり(自己 87~89)			自己評価3項目	0	
		87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室・共有部に手すりを設置している。トイレは車椅子での移動が楽にできるスペースと可動式の手すりがあり洗面台の下は車椅子のときに足が当たらないようなスペースがある。居室の照明スイッチも車椅子でも使用できる低い位置に設置している。	0		
		88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の表札やトイレの表示は、入居者の目線に合わせやや低い位置にしている。入居者の表札は居室ごとに絵を替え、リボンや造花・ぬいぐるみで飾ったり、柄の違う暖簾をかけたたりしている。	0		
		89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏口に物干し場や畑があり、洗濯物干し・草取り・園芸を入居者と一緒に行っている。畑でできた野菜は、入居者と一緒に収穫し食べている。また、玄関まわりの植栽の水まきや、ピロティーの掃除も入居者と一緒に行っている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当 番号	
サービスの 成果に 関する 項目	90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	1		
	91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	1		
	92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2		
	94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	2		
	98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	2		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいき きたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目		99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	2	
		100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	1	
		101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2	
		102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族と 家族等の2/3くらいと 家族等の1/3くらいと ほとんどできていない	2	
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当番号	

サービスの成果に関する項目の該当番号は、選択肢の該当番号を示します。

番号の上位は自己評価の項目番号を指します。外部評価項目は、番号欄に網掛けをして外部評価と表示し、外部評価の項目番号を下に表記しています。

項目の横の重点は、外部評価の調査結果で重点項目として概要表に記載される項目です。

また追加は、福岡県が国の参考例に自己評価から外部評価に加えたり、新たに自己評価も含めて独自に追加した項目などです。